

健やかで豊かな明日のために

シンシアルハート

これからの時代に最も必要なもの、それは「健康」である。自身の経験からこのことを学び、タクラマカン砂漠に育つ希少な植物・カンカとの出会いから、「本格派」アンチエイジング飲料を開発したシンシアルハート代表、中山浩志氏。その揺るぎない信念と、カンカの魅力を伺った。

Photo TONY TANUCHI Text Rie Nakajima



中山浩志(なかやま・ひろし)
イタリアワインの専門商社勤務を経て、美容と健康に関わる食品を開発・販売するシンシアルハート株式会社を設立。朝陽が照らす力に奮励し、体に負担が少なく、効果の高い「本物」の商品づくりにこだわりを持つ。

前職は、イタリアワイン専門の商社勤務。その経験から、いかに良質なワインでも、徹底した品質管理がなければ安全性や味を保つことができないことを学んだという。

「ワインは、人生をより豊かにするためのもの。しかし、これからの時代を豊かに生きるには、何より健康が欠かせません。さらに言えば、健康はお金で買える時代です。本当に良いものを、それなりの対価を支払ってでも手に入れたらというお客様に向け、信頼できる商品をお届けしたいというのが私たちの願いです」

親族に認知症の症状が出たとき、本人だけでなく周囲の人々が、どれだけ苦しむか、負担を担うかを直に目撃した。そんな自身の経験から、身の周りの人々だけでなく、広く社会に貢献するべく、誠実・信頼・貢献を企業理念に持つシンシアルハートを設立したという中山浩志氏。体に負担の少ない植物素材にこだわり、自然と人間の調和を目指す商品づくりも、その信念から生まれている。中でも今、最も注目されているのが、「砂漠の宝石」と呼ばれる植物、カンカを含むアンチエイジング飲料「ローズ シャングリラ」だ。

カンカの正式名称は「カンカ・ニクジュヨウ」。100歳以上の老人が10万人に対し187人の割合にいるという世界四大長寿村の一つ、中国新疆ウイグル自治区のホータンで、地元の人々の健康と長寿を支えてきた植物だ。タクラマカン砂漠特有の希少な植物で、過酷な自然条件下でも育つ強靱な生命力を備えている。



砂漠の宝石「カンカ」の力

世界四大長寿村のひとつ、ホータンで食されてきた砂漠の植物「カンカ」をベースに高麗人参などを配合し、ブルーベリーエキスで飲みやすく調整された「ローズ シャングリラ」。一日15~30mlを目安に、原液のまま、または水やお湯で薄めて飲む。「認知症が寛やかになり、疲れにくくなりました」と、自身も愛飲しているという中山氏。商品は、主にシンシアルハートのインターネットショップで購入できる(500ml 13,000円)。

「ホータンでは、昔からカンカをスープに入れて飲むなど食卓に欠かせないものでした。そこで、このカンカをベースに高麗人参、シヨウガエキスなどの植物エキスを配合したのがローズ シャングリラ。カンカには抗酸化作用のあるポリフェノールが高濃度で含まれ、穏やかな血管拡張作用があるといわれています。中国では認知症の改善薬として病院で処方され、日本でも近畿大学でカンカを研究するための国際シンポジウムが開かれるなど注目されています」

最近ではカンカを含むサプリメントなども発売されているが、多くが錠剤で、吸収率では液体に敵わない。しかも、「カンカは、30ml中に1万個含まれていないと、その効果が出てくれないといわれています。しかし、希少な植物なので、十分に手に入りにくいのが現状です。その点、ローズ シャングリラでは、効果を十分に引き出すのに必要な分量を贅沢に用いており、健康と美をもたらし本格派アンチエイジング飲料としてご提供しています」と中山氏は言う。

働き盛りの39歳氏を支えているのは、自社製品への絶対の自信だ。家族や周囲の人にも勧めている。「カンカは紅柳という木の根に寄生して育つ植物です。現在では、カンカの栽培のため、紅柳の植樹が進められています。つまり、カンカを含む飲料をつくることは、砂漠の緑地化にもつながるのです。世界の環境問題にも貢献しながら、ご自身と大切な人々の未来のために、ぜひお試しください」と思っています。